

23期学術会議総会、第3部会、物理学委員会の活動報告

2017/9/1 田島節子

1. 学術会議総会

「安全保障と科学技術」についての議論が最も活発に行われた話題であった。
3月24日に幹事会承認として「軍事的安全保障研究に関する声明」が出され、4月の総会で報告された。学術会議は引き続きこの問題について議論していくことを確認。

2. 第3部会

「科学技術の光と影」というテーマで3回シンポジウムを開催。自動車の自動運転の問題、公害克服からクリーンエネルギー都市へと転換した事例、情報セキュリティに関する問題、などが取り上げられた。市民の目から見た科学技術の正の側面、負の側面について考える。このテーマの分科会は、来期にも引き継がれる予定。

電子ジャーナル問題も取り上げられた。問題点を抽出した段階で、解決策の提示にまでは至っていない。

3. 物理学委員会

大型研究計画マスタープランの策定に大きな労力を費やした。物理学分野から提案したものはすべてマスタープランに掲載された。(全体で163課題、内物理分野24) その中から選ばれた重点課題28のうち、物理分野は5課題。

学術会議のこれらの提言をもとに、文科省の「学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想：ロードマップ2017」に採択されたのは7課題。内、物理分野は4課題(すべて素核、天文学宇宙関係)。その他、化学分野から「アト秒レーザー」、融合分野から「次世代放射光」が選ばれた。これらは、財務省への予算要求がなされる予定。

以上